5.5. 活用要素

本論文で「活用要素」と呼ぶのは，動詞のテンス・アスペクト・ムードといった文法範疇を担う，「時制辞」，「前語尾辞」，「語尾」である。これらの組み合わせによって，動詞のテンス・アスペクト・ムードが示めされる。この節では，主にこれら活用要素の形態と機能について述べる。具体的な活用要素の組み合わせと活用形は，次節 5.6.の表３を参照されたい。活用形自体の用法については，次節で詳しく述べる。

5.5.1. 時制辞

「時制辞」と呼んでいるが，これはテンスだけではなく，アスペクトやムードを含む文法範疇に係わる。マテンゴ語の時制辞は以下のとおりである。

単文でも複文でも用いられるもの

- a -	:	過去
- í -	:	未来
-aká-	:	移動
- i -	:	否定
- ikí-	:	禁止
接辞なし	:	現在

複文でしか用いられないもの

-aka-	:	同時
-áka-	:	仮想

テンス・アスペクトに係わるものと否定や禁止を表わすものとでは，意味機能が異質であるようにも思われる。しかしながらこれらは現われる位置が同じであり，互いにひとつの節の中に共起することはない。そこで，これらを同種の要素として扱うことにする。

時制辞の中には「昨日もし出かけていなかったら，こんなに疲れていなかっただろうに」といった事実とは逆の事態を表わす場合に用いられる -áka-や，「彼が走っているとき，私は彼を見た（走っている彼を見た）」といった２つの動作が同時に起こっていることを表わす-aka- のように，複文でしか用いられないものもある。

5.5.1.1. 過去 -a-

発話の前日以前の事態を表わす。例２のように，O辞が後接する場合には，-a-はO辞の

母音と同じ母音で現われる[19]。ただし例３のように，Ｓ辞の母音が /a/の場合には，Ｏ辞が後続しても時制辞 -a- はそのままで，実際に現われるときには，Ｓ辞の母音に融合される。また例４のように１人称単数形のＯ辞の場合は母音がないので，これが付加されても時制辞 -a- はそのまま現われる。

1) twabómbiti kibêga 「我々は土鍋を作った（完了過去）」

tu - a - bómb - iti kibéga

S1pl - 過T - 「作る」 - 完F 「土鍋(7)」

2) twikíbombîtɛ 「我々はそれ（７クラス）を作った（完了過去）」

tu - a - ki - bómb - iti

S1pl - 過T - O(7) - 「作る」 - 完F

3) agúbombí kibêba 「彼らは君のために土鍋を作った（完了過去）」

a - a - gu - bómbil - i(ti) kibéga

S3pl - 過T - O2sg - 「～に作る」 - 完F 「土鍋(7)」

4) ambômbi kibêba 「彼らは私のために土鍋を作った（完了過去）」

a - a - n - bómbil - i(ti) kibéga

S3pl - 過T - O1sg - 「～に作る」 - 完F 「土鍋(7)」

5.5.1.2. 接辞なし （φ）

現在のこと，および発話当日に起こったことを表わす場合には時制辞は付かない。

---

[19] 後続する要素の母音と同じ母音で現われる現象を名詞クラス接頭辞（4.1.1.）や属辞（4.2.2.2.），随伴の前置詞 na（4 章脚注 10）の場合と同じように考えると，時制辞とＯ辞の間に挿入母音Ｖが入り，時制辞の母音/a/がＶに融合された結果であると考えられる。後述の移動形 -aká-，同時形 -aka-，仮想形 -áka-の場合も同様である。自由変異ではあるが，Ｓ辞とＯ辞の間にも母音挿入が起こる例（5.2.1.1.）があることも，Ｏ辞が母音挿入を誘発することを裏付ける。しかしながら，未来形 -í-と禁止形 -ikí-の場合には，Ｏ辞の母音に関係なく母音が /a/になり，この場合には母音挿入とは考えられない。従って，同種の要素であるにも拘わらず母音挿入が起きる場合と起きない場合があるということになってしまう。-a-や -aka-の場合にも，母音が半母音化するような明らかに母音挿入であることを示す例はなく，これが母音挿入の結果であると断言はできない。単に「時制辞の母音はＯ辞が後ろに続く場合には，その母音と同化する」という可能性もある。

5) tubomba　kibêga　　「我々は土鍋を作る（単純現在）」

tu - ϕ - bómb - a　　kibéga

S1pl -現在T- 「作る」 - 基F　「土鍋」

6) tugubómbi　kibêga　　「我々は君のために土鍋を作った（完了現在）」

tu - ϕ - gu - bómb il - i(ti)　　kibéga

S1pl - 現在T - O2sg - 「～に作る」 - 完F　「土鍋(7)」

なおここでは，時制辞の位置を明らかにするために，分析文の中にϕを用いて示したが，これはゼロ接辞の意味ではない。

5.5.1.3. 未来 -í-

発話時点では未だ起きていないこれからのことを表わす。例８のようにO辞が後ろに続く場合は -á-になる。ただし１人称単数のO辞の場合は除く。直説法肯定の場合には，いずれの分節素で現われても声調は常にHで現われる。否定語に先行された場合とO辞が付かない接続法・希求法ではLで現われる。

7) twíbomba　kibêga　　「我々は土鍋を作る（単純未来）」

tu - í - bómb - a(dʒɛ)　　kibéga

S1pl - 未T - 「作る」 - 非完F　「土鍋」

8) twágubombila　kibêga　　「我々は君に土鍋を作る（単純未来）」

tu - í - gu - bómbil - a(dʒɛ)　　kibéga

S1pl - 未T - O2sg - 「～に作る」 - 非完F　「土鍋」

9) gwibómbɛ　kibéga　kilâ̱bɔ　　「明日土鍋を作れ（未来接続）」

gu - í - bómb - i　　kibéga　kilá̱bu

S2sg - 未T - 「作る」 - 接F　「土鍋」　「明日」

10) ŋga　twibómba　kibêga　　「我々は土鍋を作らない（単純未来）」

ŋga　tu - í - bómb - a　　kibéga

Neg　S1pl - 未T - 「作る」 - 基F　「土鍋」

5.5.1.4. 移動 -aká -

発話時点では未だ起きていないこれからのことで，発話場所とは別の場所で行なわれる行為・事態を表わす。-aká-の母音は，O辞が後接する場合にはO辞の母音と同じ母音で現われる。ただし１人称単数のO辞が接辞した場合は除く。いずれの分節で現われる場合でも声調はＬＨである。ただし「未来」を表わす時制辞の場合と同じく，O辞が付かない接続法と希求法，否定語（6.2.3.1.参照）に先行される場合にはＬＬで現われる。

11) twakábomba kibêga 「我々は土鍋を作ってくる（移動未来）」
tu - aká - bómb - a(dʒɛ) kibéga
S1pl - 移T - 「作る」 - 非完F 「土鍋」

cf. 11') * twakábomba kibéga papâpa [我々はここで土鍋を作る]
「この場所」

12) tukúgubombila kibêga 「我々は君に土鍋を作ってくる（移動未来）」
tu - aká - gu - bómbil - a(dʒɛ) kibéga
S1pl - 移T - O2sg - 「～に作る」 - 非完F 「土鍋」

13) gwakabómbi kibêga 「土鍋を作ってこい（移動接続）」
gu - aká - bómb - i kibéga
S2sg - 移T - 「作る」 - 接F 「土鍋」

14) ŋga twakabómba kibêga 「我々は土鍋を作りに行かない（移動未来）」
ŋga tu - aká - bómb - a kibéga
Neg S1pl - 移T - 「作る」 - 基F 「土鍋」

5.5.1.5. 否定 -i-

否定内容を表わす。１人称単数以外のO辞が続く場合には -a-になる。いずれの場合も声調はＬで現われる。常に否定接続語尾と共に用いられる。

15) gwibombá kibêga 「君は土鍋を作ってはいけない（否定接続）」
gu - i - bómb - á kibéga
S2sg - 否T - 「作る」 - 否F 「土鍋」

16) gwatubombilá kibêga 「君は我々のために土鍋を作ってはいけない」

gu - i - tu - bómbil - á kibéga

S2sg - 否T - O1pl - 「～に作る」 - 否F 「土鍋」

5.5.1.6. **禁止** -ikí-

禁止内容を表わす。この時制辞はO辞と共起することはできない。

17) gwikíbomba kibêga 「土鍋を作るな（禁止）」

gu - ikí - bómb - a kibéga

S2sg - 禁T - 「作る」 - 基F 「土鍋」

5.5.1.7. **同時** -aka-

従属節に用いられ，「～のときに」という主節の事態との同時性を表わす。1人称単数以外のO辞が後接する場合は，-aka-の母音はO辞の母音と同じ母音になる。声調は常にＬＬで現われる。

18) tugubɔnitá gwakabómba kibêga 「我々は君が土鍋を作っているのを見た」

tugubónitá(dʒɛ) gu - aka - bómb - a(dʒɛ́) kibéga

「我々は君を見た」 S2sg - 同T - 「作る」 - 希F 「土鍋」

19) tugubɔnitá gukutubómbila kibêga 「君が我々に土鍋を作っているのを見た」

tugubónitá(dʒɛ) gu - aka - tu - bómbil- a(dʒɛ́) kibéga

「我々は君を見た」 S2sg - 同T - O1pl - 「～に作る」 - 希F 「土鍋」

5.5.1.8. **仮想** -áka-

事実に反することの仮定を表わす。従属節で用いられる。O辞が後ろに続く場合には母音がO辞の母音と同じ母音になる。ただし1人称単数形のO辞の場合には時制辞の母音に変化はない。

20) dʒwákabǒmbiti kibêga twakabá tukíhɛmɛla

「もし彼が土鍋を作っていたなら，我々はそれを買っていただろう」

dʒu-áka - bómb - iti kibéga twakabá tukíhɛmɛla

S3sg - 仮T - 「作る」 - 完F 「土鍋(7)」 「我々はそれを買っただろう」

21) dʒúkutubombi kibêba twakabá tukíhɛmɛla

「もし彼が我々に土鍋を作っていたなら，我々はそれを買っただろう」

dʒu-áka- tu - bómbil - i(tí) kibéga twakabá tukíhɛmɛla

S3sg - 仮 T -O1pl-「～に作る」- 完 F 「土鍋(7)」 「我々はそれを買っていただろう」

5.5.2. 前語尾辞

マテンゴ語の前語尾辞は -it- の 1 種類である。時制辞も拡張辞も付かない語根に非完了語尾 -ádʒɛ が付く場合に限り付加される。具体的には，前語尾辞が現われるのは例 22 のように拡張辞が付かない動詞の当日過去形のみである。例 22' と 22"は，それぞれ時制辞と拡張辞があるため，どちらの場合も前語尾辞は付かない。

22) dʒuhɛŋgita líhɛŋgu 「彼は（今朝）仕事をしていた（当日過去）」

dʒu - ϕ - héŋg - it - á(dʒɛ) líhɛŋgu

S3sg - ϕ -「働く」- PreF 非完 F 「仕事」

cf. 22') dʒwahɛŋga líhɛŋgu 「彼は（昨日）仕事をしていた（単純過去）」

dʒu - a - héŋg - a(dʒɛ) líhɛŋgu

S3sg - 過 T -「働く」 - 非完 F 「仕事」

22") dʒulɔŋgɛlá pulukêla 「彼は朝おしゃべりをしていた（当日過去）」

dʒu - ϕ - lɔ́ŋg - ɛl - á(dʒɛ) pulukéla

S3sg - 現 T - Rad - Exp - 非完 F 「朝」 (-lɔ́ŋg-ɛl- 「おしゃべりする」)

5.5.3. 語尾

語尾は，時制辞との組み合せで，テンス，アスペクト，ムードを表わす。

- a	:	基本語尾	(基 F)
- iti /-itɛ	:	完了過去	完了語尾 (完 F)
- ití /-ité	:	完了現在	
- ádʒɛ	:	当日非完了	非完了語尾 (非完 F)
- adʒɛ	:	非当日非完了	
- i / -ɛ	:	接続語尾	(接 F)
- adʒé	:	希求語尾	(希 F)
- á	:	否定接続語尾	(否 F)

完了語尾と接続語尾の末尾の / i / は後続語がない場合には / ɛ / で現われる。２音節の語尾は語基の構造によって現われ方が異なってくる。以下，各語尾の形態について詳しく述べる。

5.5.3.1. 基本語尾 -a

不定形，単純現在形，確認未来，確認移動未来，否定形未来に用いられる。語基にそのままの形で付加され，母音調和や母音挿入は起こらない。

23) tusóma　kitâbu　　「我々は本を読む（単純現在形）」

tu - sóm - a　kitábu

S1pl -「読む」- 基F　「本」

5.5.3.2. 完了語尾 -iti/ -ití

文末では -itɛ / itɛ́で現われる。完了相を表わすが，声調によってテンスが２つに分けられる。 -iti (ＬＬ) は完了過去に用いられ， -ití (ＬＨ) は完了現在に用いられる。どちらの場合も語基の構造によって現われ方が異なる。以下それらの例をあげていく。dʒu -は３人称単数の主語に呼応するＳ辞，-a-は過去を表わす時制辞である。

5.5.3.2.1. 動詞語根が CV の場合

完了語尾は，動詞語根の音節構造が CV の動詞の直後に付く場合には -ili になる。声調は-itiの場合と同様に，完了過去形はＬＬ，完了現在形はＬＨである。

		完了過去	完了現在
-lé-	「食べる」	dʒwalîlɛ (dʒu-a-lé-ili)	dʒulílɛ (dʒu-lé-ilí)
-pí-	「出かける」	dʒwapîlɛ (dʒu-a-pí-ili)	dʒupílɛ (dʒu-pí- ilí)

5.5.3.2.2. 動詞語根に拡張辞が付かない場合

動詞語根の後ろに拡張辞が付かない場合は，このまま語根の直後に付く。母音調和は起こらない。

		完了過去	完了現在
-sóm-	「読む」	dʒu-a-sóm- îti	dʒu-sóm- ǐti
-héŋg-	「働く」	dʒu-a-héŋg- îti	dʒu-héŋg- ǐti
-bó-	「動かす」	dʒu-a-bó- îti	dʒu-bó- ǐti

ただし，いくつかの動詞については，完了語尾の接続に２とおりある。次にあげるのは完了現在形の例であるが，/ の左側の現われ方は，次に述べる「語尾変化規則」の結果であると思われる。

-bón-	「見つける」	dʒu-bwêni / dʒu-bón-iti
-hwát-	「着る」	dʒu-hwêti / dʒu-hwát-iti
-lél-	「泣く」	dʒu-lîti / dʒu-lél-iti
-tɛ́nd-	「する」	dʒu-têi(ti) / dʒu-tɛ́nd-iti
-pál-	「愛する」	dʒu-pâi(ti) / dʒu-pal-iti

5.5.3.2.3. 動詞語根に拡張辞が付く場合

拡張辞のある動詞に完了語尾が付加される場合には，語尾直前の子音（最後の拡張辞の子音）が語尾の子音の位置に移動し，もともとあった語尾の子音 / t / は消える[20]。さらに，最後の拡張辞の母音が後舌母音（u, o, ɔ）の場合には，その母音は半母音化する。最後の母音がそれ以外（i, e, ɛ, a）の場合は，語尾の母音/ i /に融合する。いずれの場合も，結果的に音節数は１つ少なくなる。この語尾の結合による一連の変化の規則を「語尾変化規則」と呼ぶ。例は完了現在形である。

-bút-uk-il-　「追いかける」

→ dʒu - bút - uk - il - ~~it~~ ɛ́
→ dʒu - bút - uk - i - ilɛ́
→ dʒu - bút - uk - ilɛ́

dʒubútukĭlɛ「彼は追いかけた（完了現在）」

-gɔ́l-ɔk-　「寝ころぶ」

→ dʒu - gɔ́l - ɔk - ~~it~~ ɛ́
→ dʒu - gɔ́l - ɔ - ikɛ́
→ dʒu - gɔ́l - w - ikɛ́

dʒugɔ́lwĭkɛ「彼は寝転んでいる（完了現在）」

---

[20] この現象は imbrication と呼ばれる（Bastin 1980:88）。梶（1985:42）では「子音の置き換え」としてテンボ語でのこの現象を報告している。テンボ語の場合，限られた子音にのみこの現象が起こっているのに対して，マテンゴ語の場合は，その環境に位置するすべての子音に起きる。

語尾直前の拡張辞が母音のみの場合には，語尾の子音の位置に移動する子音はないが，もともとあった語尾の子音 / t / は消える。母音は，子音が移動する場合と同じく，後舌母音（u, o, ɔ）であればその母音は半母音化され，それ以外（i, e, ɛ, a）の場合には語尾の母音に融合する。この場合にも，結果的に音節数は１つ少なくなる。

-léŋg-an-ak-e-「作る」　→ dʒu - léŋg - an - ak - eφ - ~~i~~ é
→ dʒu - léŋg - an - ak - e - ié
→ dʒu - léŋg - an - ak - ié
dʒuléŋganakĭɛ「彼は作り終えた（完了現在）」

-háb-u-　「落とす」　→ dʒu - háb - uφ - ~~i~~ é
→ dʒu - háb - u - ié
→ dʒu - háb - w - ié
dʒuhábwĭɛ「彼は落とした（完了現在）」

5.5.3.3. 非完了語尾 -adʒɛ/ -ádʒɛ

非完了相を表わすが，声調によって２とおりに区別される。-ádʒɛ（ＨＬ）は当日過去に用いられ，-adʒɛ（ＬＬ）は単純過去，単純未来，移動未来に用いられる。

5.5.3.3.1. 動詞語根に拡張辞が付かない場合

拡張辞がまったく付かない動詞の場合には，語根の前に時制辞が付かなければ，例 24 のように前語尾辞 -it-（5.5.2.参照）を伴なって付加される。例 25 のように時制辞が付く場合には，前語尾辞を伴なうことなく付加される。

24) -héŋg -「働く」　→　dʒu - héŋg - it - ádʒɛ
Ssg -「働く」- PreF - 非完 F
dʒuhéŋgitádʒɛ　「彼は（今日）働いていた（当日過去）」

25) -sɔ́m -「読む」　→　dʒu - a - sɔ́m - a(dʒɛ)　kitábu
Ssg - 過 T -「読む」- 非完 F　「本(7)」
dʒuasɔ́má　kitâbu「彼は昨日本を読んでいた（単純過去）」

5.5.3.3.2. 動詞語根に拡張辞が付く場合

拡張辞のついた動詞に非完了語尾 - adʒɛ が付加される場合には，語尾の直前に位置する拡張辞の母音調和がキャンセルされる。ひとつの語根に複数の拡張辞が付加された場合には，語尾の直前に位置する拡張辞以外の拡張辞は母音調和がキャンセルされているので（5.3.4.参照），語尾 - adʒɛ が付く場合には，従って，すべての拡張辞の母音調和がキャンセルされることになる。以下は当日過去形の例である。

-gól-ol-　「洗う」
→ dʒu - gól - ol - ádʒɛ
→ dʒu - gól - ul - ádʒɛ
dʒugólulǎdʒɛ　「彼は洗った 」

-lɔ́mb-ɔk-　「渡る」
→ dʒu - lɔ́mb - ɔk - ádʒɛ
→ dʒu - lɔ́mb - uk - ádʒɛ
dʒulɔ̂mbukǎdʒɛ　「彼は渡った」

-béŋg-el-　「追い出す」
→ dʒu - béŋg - el - ádʒɛ
→ dʒu - béŋg - il - ádʒɛ
dʒubêŋgilǎdʒɛ　「彼は追い出した」

-kɔ́k-ak-ɛl-「薪を動かす」
→ dʒu - kɔ́k - ak - ɛl -ádʒɛ
→ dʒu - kɔ́k - ak - il -ádʒɛ
dʒukɔ́kakilǎdʒɛ　「彼は薪を動かした」

-dʒíŋg-il-　「入る」
→ dʒu - dʒíŋg - il - ádʒɛ
→ dʒu - dʒíŋg - al - ádʒɛ
dʒudʒîŋgalǎdʒɛ　「彼は入った」

-dʒég-el-　「注ぐ」
→ dʒu - dʒég - el - ádʒɛ
→ dʒu - dʒég - al - ádʒɛ
dʒudʒégalǎdʒɛ　「彼は注いだ」

-hém-ɛl-　「買う」
→ dʒu - hém - ɛl - ádʒɛ
→ dʒu - hém - al - ádʒɛ
dʒuhémalǎdʒɛ　「彼は買った」

-kél-ak-ɛt- 「幹に傷をつける」 → dʒu - kél -ak- ɛt- ádʒɛ
→ dʒu - kél -ak- at- ádʒɛ
dʒukélakɛtădʒɛ 「彼は幹を傷つけた」

-ɲúg-uɲ- 「口の中で味わう」 → dʒu - ɲúg - uɲ - ádʒɛ
→ dʒu - ɲúg - aɲ - ádʒɛ
dʒuɲúgaɲădʒɛ 「彼は口の中で味わった」

-hjóŋg-al-ot-「ぐるぐる回る」 → dʒu - hjóŋg - al -ot - ádʒɛ
→ dʒu - hjóŋg - al -at - ádʒɛ
dʒuhjóŋgalatădʒɛ 「彼はぐるぐる回った」

-kɔ́ŋ-ɔnd- 「ノックする」 → dʒu - kɔ́ŋ - ɔnd -ádʒɛ
→ dʒu - kɔ́ŋ - and -ádʒɛ
dʒukɔ́ŋandădʒɛ 「彼はノックした」

さらに，拡張辞が２つ以上付く動詞においては，母音調和がキャンセルされたことによって語尾の直前に位置する拡張辞が-il- になった場合，その拡張辞の子音 / l /は消え，/ l /の前にある母音/ i /は半母音化する。また同じく母音調和がキャンセルされたことによって語尾直前の拡張辞が -i- になった場合にも，それは半母音化する。この半母音化によって，音節数はひとつ減少する。ただし，「語尾変化規則」の場合とは違って，モーラ数に変化はない（3.2.2.図２参照）。

-bút-uk-il- 「追いかける」 → dʒu - bút - uk - il - ădʒɛ
→ dʒu - bút - uk - ~~il~~ - ădʒɛ
→ dʒu - bút - uk - j - ădʒɛ
dʒubútukjădʒɛ 「彼は追いかけた」

-léŋg-an-ak-e-「作る」 → dʒu - léŋg - an - ak - e - ădʒɛ
→ dʒu - léŋg - an - ak - i - ădʒɛ
→ dʒu - léŋg - an - ak - j - ădʒɛ
dʒuléŋgnakjădʒɛ 「彼は作った」

5.5.3.4. 接続語尾 -i

接続法の活用形に用いられる。後続語がない場合には -ɛで現われる。

26) gusɔ́mi kitâbu 「本を読みなさい」

gu - sɔ́m - i kitábu

S2sg - 「読む」- 接F 「本」

27) gugólôlɛ 「（食器を）洗いなさい」

gu - gólol - i

S2sg - 「洗う」- 接F

5.5.3.5. 希求語尾 -adʒɛ́

希求法の活用形に用いられる。非完了語尾と同じく，この語尾の直前に位置する拡張辞の母音調和はキャンセルされる。ただし，拡張辞も時制辞も付かない動詞に非完了語尾が付加される場合に現われた前語尾辞 -it- は，この希求語尾では現われない。

28) tuhínâdʒɛ 「踊りましょう」

tu - hín - adʒɛ́

S1pl - 「踊る」- 希F

cf. 28') tuhínâdʒɛ 「（今朝）我々は踊っていた」

tu - hín - it - ádʒɛ

S1pl - 「踊る」-PreF- 非完F

5.5.3.6. 否定接続語尾 -á

否定接続形に用いられる。常に否定時制辞と共に用いられる。語基にそのままの形で付加され，母音調和は起こらない。

29) twisɔmá kitâbu 「我々は本を読まないほうがいい」

tu - i - sɔ́m - á kitábu

S1pl - 否T - 「読む」- 否F 「本」

30) twisǒma 「我々は読まないほうがいい」

tu - i - sǒm - á

S1pl - 否T - 「読む」 - 否F

5.5.3.7. 語末音節の脱落

後続語がある場合，最終音節，つまり語尾の一部が脱落する場合がある。

基本語尾 -a あるいは否定語尾 -áが，子音/l/で終わる拡張辞もしくは母音のみの拡張辞の直後に付く場合，その後ろに後続語があれば動詞の語末音節は脱落する。例 32 の場合のように，子音/l/が拡張辞ではなく語根の子音の場合には脱落は起きない。

31) dʒubambali íŋɔma 「彼は太鼓に皮を張る」

dʒu - bámbal - i(l - a) íŋɔma

S3sg - 「張る」 - AP - 基F 「太鼓(9)」

cf. 32) dʒupa̱la íŋɔma 「彼は太鼓を必要としている」

dʒu - pa̱l - a íŋɔma

S3sg - 「要る」 - 基F 「太鼓(9)」

完了語尾 -iti が付加されて語尾変化規則の結果として語末音節が母音だけになる場合，あるいは語末音節が/li/になる場合には，後続語があれば，その語末音節は脱落する。

33) dʒwahɔ́twîlɛ 「彼は刺した」

dʒu - a - hɔ́tɔl - iti → dʒu - a - hɔ́tɔl - ~~iti~~ i

S3sg - 過T - 「刺す」 - 完F → dʒu - a - hɔ́tɔ - ili

→ dʒu - a - hɔ́tw - ili

33') dʒwahɔ́twî m̩pâmba 「彼はナイフを刺した」

dʒu - a - hɔ́tɔl- i(ti) m̩pámba

S3sg - 過T - 「刺す」 - 完F 「ナイフ(3)」

非完了語尾 -adʒɛは，後ろに後続語がある場合には２音節め /dʒɛ/ が脱落する。「語末から３音節めよりも前にある長母音は短母音化する」という規則があるが（3.2.2.参照），この規則においては /dʒɛ/は，脱落しない場合でも音節数に数えられない。つまり/dʒɛ/が

脱落した場合に長母音で現われている語根は，/dʒɛ/が脱落しない場合にも長母音で現われる。次節で各活用形の用法については詳しく述べるが，非完了語尾が用いられる活用形は多くの場合，後続語を伴なって用いられるので，/dʒɛ/が表面化する場合は限られている。そのため動詞語根の母音の長さは/dʒɛ/が脱落した状態が基準になっていると思われる。

34) dʒubâmbila　íŋgobu　　(dʒubâ:mbila)　　「彼女は服につぎをあてた」
dʒu - bámbil - a(dʒɛ)　　íŋgobu
S3sg -「つぎをあてる」 -非完F　「服(9)」

cf. 34') dʒubâmbilǎdʒɛ　　(dʒubâ:mbila:dʒɛ)　「彼女はつぎをあてた」

希求語尾は，非完了語尾と同じく，後続語がある場合には常に語末音節/dʒɛ/が脱落する。短母音化の際に，/dʒɛ/が音節数に数えられないことも同じである。

35) gugólúladʒɛ　　「洗いなさい」
gu - gólol - adʒɛ́
S2sg -「洗う」 - 希F

35') gugólúla　kibêga　　「ボウルを洗いなさい」
gu - gólol - a(dʒɛ́)　　kibéga
S2sg -「洗う」 - 希F　「土鍋(7)」

例36'のように，/ dʒɛ / の脱落によって語末に位置することになった / a / にHがある場合には，/ a /は２モーラのままた保たれ，Fで現われる。この現象は，例37'が示すように非完了語尾 -ádʒɛの場合には起こらない。

36) tusómâdʒɛ　　「読みましょう」
tu - sóm　- adʒɛ́
S1pl -「読む」 - 希F

36') tusómâ　kitâbu　　「本を読みましょう」
tu - sóm -　a(dʒɛ́)　　kitábu
S1pl -「読む」 - 希F　「本(7)」

37) tusómǎdʒɛ 「（今日）我々は読んだ」

tu - sóm - ádʒɛ

S1pl -「読む」 - 非完F

37') tusɔmá kitâbu 「（今日）我々は本を読んだ」

tu - sóm - á(dʒɛ) kitábu

S1pl -「読む」 - 非完F 「本(7)」

以上の語末音節の脱落は，単文では後続語がある場合にのみ起こるが，複文の従属節にこれらの活用形が用いられる場合には，後続語がない場合でも脱落することがある。ただしこれは強制ではなく自由変異である。

38) lúhạgí lẹ̱ dʒulúgolo = lúhạgí lẹ̱ dʒulúgolola 「彼が洗うボウル」

lúhạgí lẹ̱ dʒu - lu - gólo(l - a)

「ボウル(11)」 R(11) S3sg - O(11)-「洗う」- 基F

39) lúhạgí lẹ̱ dʒulúgolula = lúhạgí lẹ̱ dʒulúgoluladʒɛ 「彼が洗ったボウル」

lúhạgí lẹ̱ dʒu - a - lu - gólul- a (dʒɛ)

「ボウル(11)」 R(11) S3sg - 過T - O(11) -「洗う」- 非完F